

一般社団法人日本医療薬学会  
平成 28 年度第 3 回定例理事会 議事録

一．開催日時：平成 28 年 6 月 2 日（土） 13 時 ～ 16 時 30 分

二．開催場所：日本医療薬学会会議室

三．出席者

会 頭：佐々木 均

副会頭：奥田 真弘、山田 安彦

理 事：青山 隆夫、出石 啓治、伊藤 清美、大谷 壽一、佐藤 淳子、  
千堂 年昭、武田 泰生、濱 敏弘、峯村 純子、宮崎 長一郎、  
望月 眞弓、山田 清文、脇山 尚樹

監 事：大石 了三、安原 真人、山元 俊憲

陪席者

事務局：星 隆弘

欠席者

副会長：井関 健

理 事：川上 純一、崔 吉道、松原 和夫

四．議長：佐々木 均

五．会議の成立

定刻において、議長より開会が宣言され、本理事会は理事 17 名の出席があり、定款第 38 条に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨が報告された。

六．議事の経過の概要及びその結果

1. 平成 28 年度第 2 回定例理事会議事録の確認

議長より、本年 3 月 26 日に開催された平成 28 年度第 1 回定例理事会議事録を基に議事内容の確認が行われ、修正等がある場合には本理事会終了時までに指摘するよう要請があった。

2. 第 8 回定時社員総会議事録の確認

議長より、本年 3 月 26 日に開催された第 8 回定時社員総会議事録を基に議事内容の確認が行われ、修正等がある場合には本理事会終了時までに指摘するよう要請があった。

3. 平成 28 年度第 1 回臨時理事会議事録の確認

議長より、本年 3 月 26 日に開催された平成 28 年度第 1 回臨時理事会議事録を基に議事内容の確認が行われ、修正等がある場合には本理事会終了時までに指摘するよう要請があった。

続いて、前回理事会から昨日までに開催された各委員会等の会務状況が報告された。

#### 4. 協議事項

##### (1) 平成 28 年度学会賞受賞者の選考

###### 1) 功績賞受賞者の決定

議長より、今年度の功績賞受賞候補者の選考に係る功績賞選考委員会での審議結果として、本理事会に 2 名の候補者を推挙したことが説明された。協議した結果、次の 2 氏への功績賞授与が了承された。(以下、五十音順)

- ・ 大森 栄 氏 (信州大学医学部附属病院)
- ・ 望月 眞弓 氏 (慶應義塾大学薬学部、慶應義塾大学病院)

###### 2) 学術貢献賞受賞者の決定

議長より、学術貢献賞・奨励賞等選考委員会による今年度の学術貢献賞受賞候補者の選考に係る審議結果として、今年度は 1 名より応募があったこと。また、当該応募者は学術貢献賞の受賞候補者として相応しく、本理事会に推挙したことが説明された。協議した結果、次の 1 名への学術貢献賞授与が了承された。

- ・ 有森 和彦 氏 (宮崎大学医学部附属病院)

###### 3) 奨励賞受賞者の決定

議長より、学術貢献賞・奨励賞等選考委員会による今年度の学術貢献賞受賞候補者の選考に係る審議結果として、今年度は 4 名より応募があったこと。また、奨励賞の受賞候補者として、うち 3 名が相応しく、本理事会に推挙したことが説明された。協議した結果、次の 3 名への奨励賞授与が了承された。(以下、五十音順)

- ・ 加賀谷 英彰 氏 (秋田大学医学部附属病院)
- ・ 舘 知也 氏 (岐阜薬科大学)
- ・ 山本 和宏 氏 (神戸大学医学部附属病院)

###### 4) 論文賞受賞論文の決定

脇山理事より、論文賞選考委員会による今年度の論文賞受賞候補論文の選考に係る審議結果として、今年度は 3 編を受賞候補論文として推挙したこと及び選考理由が説明された。協議した結果、次の 3 編に論文賞を授与することが了承された。

- ・ 進行再発大腸がんの FOLFIRI 療法および mFOLFOX6 療法に対する IRIS 療法の経済評価－費用最小化分析  
著者 清水久範、池田俊也、坂巻弘之、矢島秀一、池上直己、村山純一郎  
(医療薬学 Vol. 41, #3, 153-162)
- ・ 外来がん化学療法施行患者に対する薬剤師介入による副作用および疼痛改善効果についての定量的評価  
著者 若杉吉宣、森井博朗、須藤正朝、阪中美紀、野田哲史、藪田直希、三上貴子、園田文乃、河合由紀、目片英治、寺田智祐  
(医療薬学 Vol. 41, #3, 173-178)
- ・ 輸液に炭酸水素ナトリウム注射液(メイロン®静注)を混合する時の留意点  
－ 点滴筒内液面低下と炭酸濃度の関係 －  
著者 泉伯枝、豊田太一、青木光夫、大和孝江

(医療薬学 Vol. 41, #7, 455-462)

#### 5) Postdoctoral Award 受賞者の決定

議長より、学術貢献賞・奨励賞等選考委員会による今年度の Postdoctoral Award 受賞候補者の選考結果として 11 名より応募があり、同賞の受賞候補者として、うち 5 名が相応しく、本理事会に推挙したことが説明された。協議した結果、次の 5 名への Postdoctoral Award 授与が了承された。(以下、五十音順)

- ・ 榎屋 友幸 氏 (三重大学医学部附属病院)
- ・ 近藤 智子 氏 (鹿児島大学医学部・歯学部附属病院)
- ・ 野田 哲史 氏 (滋賀医科大学医学部附属病院)
- ・ 山田 尚広 氏 (浜松医科大学医学部附属病院)
- ・ 渡邊 真一 氏 (愛媛大学医学部附属病院)

#### 6) 表彰制度の見直し

議長より、学術貢献賞は、既存する奨励賞を分割し受賞対象者を 40 歳以上の者とした表彰制度として設置されたこと、それに合わせて 40 歳未満の者を奨励賞の対象者として区分したことが説明された。両賞ともに若手・中堅クラスで優れた研究活動を納めた者を表彰し研究活動の活性化を図る目的であったが、医療薬学分野の発展・拡大にともない、新たなカテゴリーで優れた業績を納めた研究者も増加した。しかしこれらを表彰するカテゴリーがないため、既存の表彰制度の位置づけを再検証すると共に、新たなカテゴリーの表彰制度の設置に係る検討を進めたいという主旨説明があった。協議した結果、本件は了承され、井関副会頭を中心として検討することとなった。

#### (2) 名誉会員の委嘱候補者の推薦

議長より、本学会の社員総会の決議を経て委嘱する名誉会員の候補者として、名誉会員推薦基準内規の要件を充足する 4 名を候補者として推薦する主旨の説明があった。協議した結果、本件は了承され、第 8 回臨時社員総会に協議案件として諮ることとなった。(以下、五十音順)

- ・ 乾 賢一 氏 (前 京都薬科大学)
- ・ 内野 克喜 氏 (東京薬科大学)
- ・ 北田 光一 氏 (前 日本病院薬剤師会)
- ・ 樋口 駿 氏 (第一薬科大学)

#### (3) 平成 28・29 年度各委員会の編成及び顧問職の設置

議長より、平成 28・29 年度各委員会の編成状況について、各委員会委員長より提示された委員会リストを基に説明があった。一部の長期就任や併任が多いケースについては、委員会活動に支障が生ずる場合を除き、該当する委員会委員長を担当する理事に対して、なるべく来年(1年後)交代することの検討要請があった。

続いて、顧問職の設置目的が説明され、本学会として緊密な関係を築く必要がある関連組織の長らを本理事会に顧問として招き、必要時に意見を拝聴したい旨の説明が

あった。協議した結果、本件は了承され、山田(安)副会頭及び千堂総務担当理事で検討した上で、次回の理事会に顧問の設置に係る規定を提示することとなった。

#### (4) 旅費規程及び同細則の改正

千堂理事より、旅費規程及び細則の改正点として、①旅費の支給範囲と対象の明確化、②旅費支給の対象期間（旅行）中に見舞われた災害や交通機関等の不可抗力なトラブルにより追加負担が発生した際の旅費の手当を可能とすること、③速達性のある全ての新幹線（はやぶさ、こまち、かがやき等）の特急料金の支給を可能としたこと。これら3項目の追加・変更を加えた改正に係る説明があり、了承された。

#### (5) 平成28年度認定薬剤師制度における認定審査結果

青山理事より、第1回認定薬剤師制度委員会（5月23日開催）で審議した認定薬剤師試験の受験資格、指導薬剤師の委嘱資格、研修施設の各資格要件への適合性に係る判定結果の説明があった。

##### 1) 認定薬剤師の受験資格審査

今年度の認定薬剤師には123名より申請があり本委員会で審議した結果、122名が薬物療法専門薬剤師・認定薬剤師認定試験の受験資格を有すると判定したこと及びうち14名が指導薬剤師の委嘱との同時申請者であることが説明された。協議した結果、当該審査結果は了承された。（なお、指導薬剤師の委嘱と同時申請をした者が当該認定試験に合格した際には、認定薬剤師の認定と指導薬剤師の委嘱の双方が認められる。）

##### 2) 指導薬剤師の委嘱審査

今年度の指導薬剤師には35名より申請があり本委員会で審議した結果、34名が指導薬剤師の委嘱要件を満たしていたと判定したこと及び1名の不認定理由が説明された。協議した結果、当該審査結果は了承された。（委嘱日：本年6月1日、委嘱期間：本年1月1日から委嘱者が受けている認定薬剤師の認定期間の満了日まで。）

##### 3) 認定薬剤師制度研修施設の認定審査

今年度第1期目の認定薬剤師制度研修施設には14施設より申請があり本委員会で審議した結果、従来の判定基準に鑑み、全14施設を認定薬剤師制度研修施設として認定可能と判定したことが説明された。協議した結果、当該審査結果は了承された。（認定日：本年6月1日、認定期間：本年1月1日から5年間。）

#### (6) 薬剤師生涯学習達成度確認試験への対応

望月理事より、生涯学習達成度確認試験の実施概要が説明された。続いて、本試験に係るディスカッションの中で、本学会の認定試験と共通問題となっている同確認試験を本学会会員が受験した場合の取扱いや享受できるメリットに関する話があり、議長は今後数年間の当該達成度確認試験の成績を解析した上での検討を示唆した。

また、議長は、当該試験の参考図書となっている「病態を理解し組み立てる薬剤師のための疾患別薬物療法Ⅰ～Ⅴ巻」（南江堂：以下、テキスト）の改訂に係る検討を、出版委員会の山田担当副会頭及び峯村委員長に要請した。

(7) 平成 29・30 年度代議員選出

千堂理事より、平成 29・30 年度代議員選出スケジュール(案)と同選挙の運営管理を担う代議員選挙管理委員会の編成に係る説明があった。本年 9 月 1 日付けでの代議員選挙を公示し 11 月下旬には当選者情報を公示すること、また推薦代議員は、本年第 6 回定例理事会にて代議員推薦委員会の編成を決定し、翌年 1 月より具体的な代議員候補者を選出するスケジュールが了承された。続いて、代議員選挙管理委員会の編成については、5 名の委員によって編成する案が示され、委員会編成も了承された。

また、ほぼ全ての正会員が投票権を有する代議員選挙の投票率の向上を図るための議論があり、効果的な広報を行うほか、将来的にはスマートフォンの利用を含めた簡便な投票方法の可能性を検討することとなった。

(8) 前年度会費の遡及に係る嘆願

山田(安)副会頭より、前年度会費の遡及の嘆願 3 件について説明があり、協議した結果、全ての嘆願を了承することとなった。

(9) 第 8 回臨時社員総会、平成 28 年度学会賞表彰式の日程

議長より、第 26 回医療薬学会年会の会期中に開催される第 8 回臨時社員総会及び平成 28 年度学会賞表彰式の開催日時が連絡された。

(10) その他

議長より、次の 2 件に係る提案がなされ議論された。

1) 大学教員・学生によるシンポジウムの開催

昨年及び本年共に、医療薬学公開シンポジウムの 1 つの企画として、大学教員・学生を主体としたシンポジウムが企画・開催されているが、同シンポジウムから独立した企画としての実施に係る提案があり、協議した結果、山田副会頭、青山、伊藤及び大谷各理事の 4 名による検討WGを編成し、実施に向けた具体的な検討を進めることとなった。また、本学会への薬学生・大学院生の関わり合いの機会を増やすための意見交換が行われ、継続的に検討することとなった。

2) サイエンスに関わる小委員会の設置

サイエンス研究に取り組むための小委員会を設置し、学会として先進的な研究活動を推進させ、その成果を本学会年会やホームページ上に発表又は掲載し周知するという実施方針に係る提案があり、協議した結果、奥田副会頭を中心としたWGにおいて、委員会の組織体制と具体的な委員(長)候補者の選任などを含めて検討を進めることとなった。

5. 報告事項

(1) 第 26 回医療薬学会年会の準備状況報告

議長より、第 26 回医療薬学会年会の準備状況として、同年会のプログラムの概要、一般演題への登録状況（全 1695 件の申込み）及び査読スケジュール、参加登録状況などの情報が報告された。

(2) 平成 28 年度公開シンポジウムの開催スケジュール

青山理事より、今年度開催する医療薬学公開シンポジウム（第 61～64 回）の 4 会場の開催日程及びテーマが決定したことが報告された。

(3) 抗微生物薬適正使用推進検討委員会（第 5 回）の議事報告

奥田副会頭より、本年 5 月 22 日に開催された第 5 回抗微生物薬適正使用推進検討委員会の議事として、本学会を含めた 8 学会が協力して、今後 ASP ガイドライン的なものを作成する計画が話し合われたことが報告された。

(4) 後援依頼

議長より、本学会への後援依頼及び広報の依頼があった次の 5 件について、了承回答した旨の報告があった。

- ・「日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2017」（日本臨床腫瘍薬学会）
- ・「第 20 回オンコロジーセミナー」（がん医療研修機構）
- ・「第 1 回 PLCM(耕薬)実習講習会」（PLCM(耕薬)研究会）
- ・「第 17 回臨床腫瘍夏期セミナー」（東京がん化学療法研究会）
- ・「第 11 回薬局管理学研究会年会」（日本薬局管理学研究会）

(5) 厚生労働科学研究費補助金平成 25 年度～27 年度総合研究報告書

議長より、「薬剤師が担うチーム医療と地域医療の調査とアウトカムの評価研究」について、3 年間の総合研究報告書を取りまとめて厚生労働省に提出したことが報告された。また、チーム医療推進分担研究班による「プロトコールに基づく薬物治療（PBPM）導入マニュアル」を学会ホームページに掲載予定であることが紹介された。

以上をもって議事の全部の審議及び報告を終了したので、議長は 16 時 30 分に閉会を宣言し、解散した。

上記議事概要及びその結果を明確にするため、会頭及び監事は次に記名押印する。

平成 年 月 日

一般社団法人日本医療薬学会

会 頭 .....印

監 事 .....印

監 事 .....印

監 事 .....印